

# 新たな視点と先を読む力養う



ジェイリース CEO 代表取締役社長  
中島 拓氏

- ① 宇佐神宮
- ② 将棋の勉強
- ③ 大分トリニータの勝敗表とにらめっこ

家賃債務保証業のジェイリースは創立14年目の昨年3月、県内では3社目となる東京証券取引所第一部上場を果たした。保証会社として信用力を高める目的で当初から上場を目指していたが、実際に上場してみると達成感よりも社会的責任の重さを痛切に感じているという。

今期は中間決算期に償却引き当ての大幅な積み増しを行った。「東証の独立系企業として十分な引き当てを実施し、より保守的な財務体質を構築することは将来にわたり必要であると判断した。今後は可及的速やかな復配を目指し、株主の皆さまに還元したい」と決意を語る。

東証一部上場を機に経団連にも加盟

した。勉強会では他の上場企業のトップたちと肩を並べて国際社会での日本の役割も学び、「これまでにない視点を持たなければならぬ」と感じている。特に必要だと感じているのが、一歩も二歩も先を読む力。政治・経済の何気ない日常の動きからビジネスの先行きを読み、戦略を打つ。やるべきことに対してスピードを緩めることはない。

東京、大分の2社体制を敷くが「地域を大事にしたい」という大分愛は変わらない。スポンサーを続けている大分トリニータがJ1に昇格したことは「半端ない、うれしい出来事」だった。J2リーグ最終戦の昇格争いを見守るため山形まで応援に駆けつけ、その瞬間、歓喜の渦の中にいた。「これか

らも継続してしっかり支援していく」という力強い言葉に、冷めやらぬ興奮がにじむ。

昨年4月に実業団のサッカーチームを発足させた。大分県社会人サッカーリーグ3部に籍を置いた「ジェイリースFC」は1年目で優勝という結果を残し、2部への昇格が濃厚となっている。戦力補強も終え、こちらも順調。夢は九州リーグへの昇格だ。「応援にも行きたいが、なかなか大分に帰れないのが残念」

東証一部上場企業として真価が問われる2019年。「チェンジDNA」を合言葉に、過去の成功体験にとらわれず挑戦し続ける。



これからも継続して大分トリニータを支援